

豊田綱領・基本理念

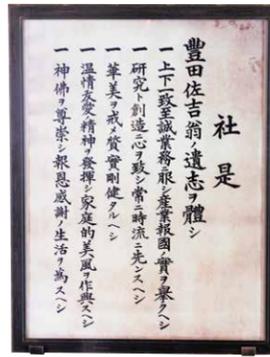
豊田綱領・基本理念に基づき価値創造を行うことで、
住みよい地球と豊かな生活、そして温かい社会づくりに貢献していきます。



豊田綱領(社是)

豊田佐吉翁の遺志を体し

- 一、 上下一致、至誠業務に服し、産業報国の実を挙ぐべし
- 一、 研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし
- 一、 華美を戒め、質実剛健たるべし
- 一、 温情友愛の精神を発揮し、家庭的美風を作興すべし
- 一、 神仏を尊崇し、報恩感謝の生活を為すべし



当社では、社祖・豊田佐吉の精神を
まとめた豊田綱領を社是とし、これを
もとに基本理念を定めました。

基本理念

【公明正大】

内外の法およびその精神を遵守し、公正で透明な企業活動を実践する

【社会貢献】

各国、各地域の文化や慣習を尊重し、経済・社会の発展に貢献する

【環境保全 品質第一】

企業活動を通じて住みよい地球と豊かな社会づくりに取り組むとともに、
クリーンで安全な優れた品質の商品を提供する

【顧客優先 技術革新】

時流に先んずる研究と新たな価値の創造に努め、お客様に満足していただける商品・サービスを提供する

【全員参加】

労使相互信頼・自己責任を基本に、一人ひとりの個性と能力を伸ばし、
全体の総合力が発揮できる活力ある企業風土をつくる

ごあいさつ

平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

2021年度の世界経済情勢を概観しますと、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、ワクチン接種の進展もあり経済活動が再開し、景気は回復し始めました。しかしながら、半導体不足、コンテナ不足などによる物流の混乱、期末にかけてのロシア、ウクライナ情勢悪化などの影響から、その回復の勢いは弱まりつつあります。また、日本経済も世界経済に遅れながらも回復傾向が見られましたが、同様にそのペースは鈍化しております。

このような情勢の中で、当社グループは、品質優先を基本に、お客様の信頼にお応えするとともに、各市場の動きに的確に対応して、販売の拡大に努めることで、前年度に対し増収・増益となりました。

期末の配当金につきましては前年度から10円増加の90円とし、年間では20円増加の170円とさせていただきます。なお、株主の皆様は期末配当金を早くお受け取りいただけるよう、前年度と同様、株主総会での決議ではなく、取締役会での決議といたしました。

取り巻く環境を見ますと、世界経済は先行きの不透明感が増しており、また一方では、カーボンニュートラル実現に向けた世界的な取り組みの加速、デジタル化の進展など、政治、経済、テクノロジーの分野における変化のスピードが増しています。こうした中、当社においては、デジタル技術やオープンイノベーションの積極的な活用を通じて革新的な技術・商品開発を進め、持続的な成長をめざしてまいります。

成長に向けた基盤づくりとして、リスクに対する感度を高めるとともに、安全、健康、品質、コンプライアンスを徹底し、より強固な経営基盤の構築としなやかで強い組織づくりに努め、企業価値のさらなる向上に努めます。また、事業展開を支えるため、多様な人材が個々の能力を最大限に発揮できる組織・職場づくりを進めていきます。

皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2022年7月

取締役会長

取締役社長

豊田 鐵郎 大西 朗



取締役会長
豊田 鐵郎



取締役社長
大西 朗

事業の概要

当社の持つリソースと強みをもとに、産業車両、自動車、繊維機械の各事業の成長をはかるとともに、事業間のシナジーを活かすことにより、さらなる競争力強化に努めています。



産業車両

■ フォークリフト

世界トップシェア*のフォークリフトを中心とする産業車両の企画、開発、生産、販売、アフターサービスを展開。販売金融や物流効率化のご提案などと合わせ、お客様のあらゆるニーズにお応えしています。



電動フォークリフト

■ 物流ソリューション

バスティアン社、ファンダランデ社、当社のそれぞれの強みを活かして連携し、幅広い物流機器やシステムを組み合わせ、お客様の物流課題の解決に貢献しています。



高速保管・ピッキング装置 空港手荷物搬送（バゲージハンドリング）システム



自動車

■ 車 両

トヨタグループトップクラスのSEQCD（S：安全、E：環境、Q：品質、C：コスト、D：納期）を強みとし、国内外向けRAV4の企画、開発、生産を行っています。



RAV4 PHV

■ エンジン

企画、開発、生産の体制を敷く自動車用ディーゼルエンジンに加え、ガソリンエンジンや産業用エンジンも生産しています。



ディーゼルエンジン

ハイブリッド車用ガソリンエンジン

■ カーエアコン用コンプレッサー

小型・軽量・省燃費などの環境性能、高速回転時の信頼性や静粛性が高く評価され、販売台数シェアは世界No.1*です。

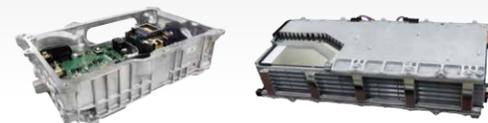


電動コンプレッサー

燃料電池自動車用酸素供給エアコンプレッサー

■ 電子機器ほか

ハイブリッド車をはじめとする幅広い電動車向けエレクトロニクス商品や、車載用電池の企画、開発、生産を行っています。

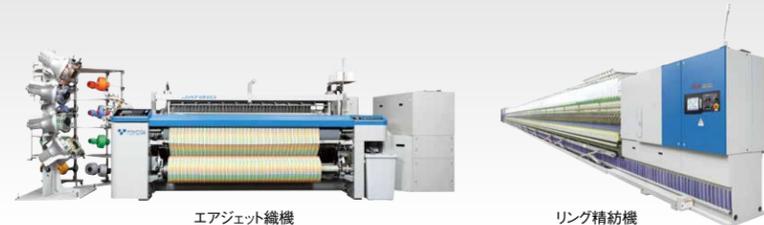


DC-DCコンバーター

ハイボラ型ニッケル水素電池

繊維機械

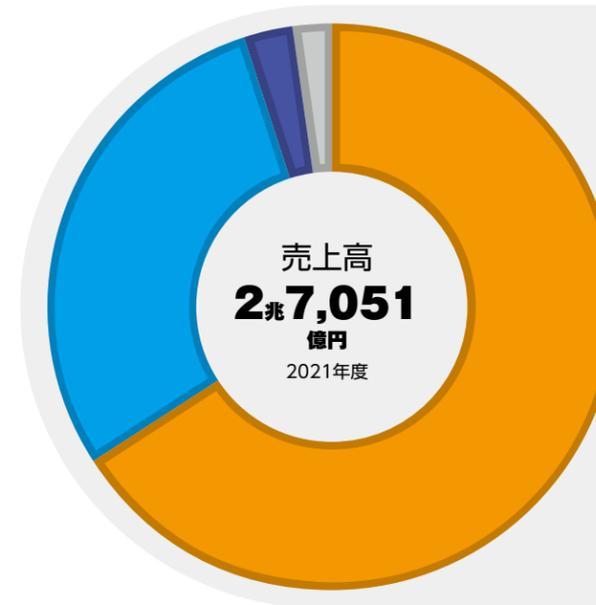
繊維の束に撚りをかけて糸を紡ぐ紡機と紡いだ糸で布を織る織機の企画から開発、生産、販売、アフターサービスまで一貫して行っています。



エアジェット織機

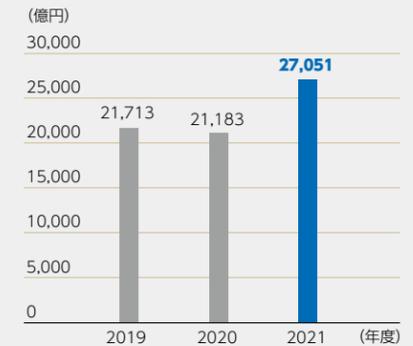
リング精紡機

*：自社調べ。



66%	産業車両	1兆7,894億円
29%	自動車	7,928億円
3%	繊維機械	692億円

売上高



産業車両

フォークリフトの世界市場が大きく拡大する中、当社の販売台数は欧州を中心に増加したことにより前年度を上回りました。また、eコマース市場の拡大などに伴い物流ソリューション事業も増収となったことから、全体の売上高は前年度を3,580億円(25%)上回る1兆7,894億円となりました。

売上高

営業利益

自動車

自動車市場は、アジアで増加し、全体では回復に向かいました。こうした中、RAV4の販売台数は減少した一方、エンジンおよびカーエアコン用コンプレッサーが増加したことにより、売上高は前年度を2,012億円(34.0%)上回る7,928億円となりました。

売上高

営業利益

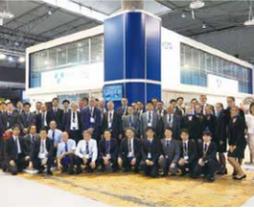
繊維機械

市場は主力の中国を含むアジアで堅調に推移しました。こうした中、エアジェット織機や繊維品質検査機器が増加したことにより、売上高は前年度を284億円(69%)上回る692億円となりました。

売上高

営業利益

目次

豊田綱領・基本理念 ごあいさつ 事業の概要 目次	表紙の裏		
	1		
	2-3		
	4-5		
トップメッセージ	6-13		
	14-15	16-17	
価値創造の流れ	成長を支える6つの資本		
社会課題の解決と企業価値向上に向けた取り組み	18-19		
成長への取り組み	社会課題に貢献する新たな技術・商品の開発	20-23	
	事業の取り組み	24-29	
	産業車両	24-29	
	自動車	30-36	
	車両	31-32	
	エンジン	32-33	
	カーエアコン用コンプレッサー	33-35	
	電子機器ほか	35-36	
繊維機械	37		

ESGの推進	環境への取り組み	38-41	
	環境マネジメントの推進	38-41	
	脱炭素社会への貢献	42-45	
	循環型社会の構築	46-47	
	環境リスク低減と自然共生社会の構築	47-49	
	ステークホルダーとの関わり	50-51	
	お客様との関わり	50-51	
	取引先様との関わり	52-53	
	株主・投資家の皆様との関わり	54	
	従業員との関わり	55-59	
地域社会との関わり	60-61		
コーポレート・ガバナンス	62-65		
ガバナンス体制	62-65		
政策保有株式	65		
内部統制/サステナビリティ方針	66		
人権の尊重	67-69		
コンプライアンス	69-71		
情報セキュリティ	71-72		
リスク管理	73-74		
当社の知的財産活動	75		
取締役、監査役、経営役員および執行職	76-77		
主な拠点	78-79		
連結財務・非財務ハイライト	80-81		
11年間の連結財務サマリー	82-83		
財務諸表	84-87		
企業情報・財務情報	88-89		

編集方針	幅広いステークホルダーの皆様の当社に対する理解を深めていただくことを目的に、2007年度より「 「アニュアルレポート」 と「 社会・環境報告書 」を統合し、「 豊田自動織機レポート 」として発行しています。 豊田自動織機グループの経営方針に加え、事業、環境、社会、コーポレート・ガバナンスの各分野における1年間の取り組みや今後の方向性などを、読者の皆様にわかりやすくお伝えできるよう心がけました。
報告対象期間	2021年度(2021年4月から2022年3月)の活動を中心に記載していますが、一部対象期間外の内容も紹介しています。
報告対象の組織	当社および連結子会社を含めた当社グループを対象としています。
参考にしたガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> ● GRIスタンダード ● ISO26000 ● 環境省「環境会計ガイドライン2005年版」 ● 環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」 ● IIRC「国際統合報告フレームワーク(2021年版)」

「豊田自動織機レポート2022」PDFについて

このPDFファイルは、関連する[ウェブサイト](#)や[動画ページ](#)にリンクしています。

■使い方
ページ内のをクリックすると、関連するサイトをご覧ください。

またQRコードをスマートフォンで読み取ると、関連するサイトをご覧ください。

※インターネットに接続した状態でご利用ください。



将来見通しに関する記述についての注意

本レポートには、リスクや不確実性を伴う予測や将来に関する記述が含まれています。これらは「見通し」、「見込み」、「予想」、「計画」などの表現を使って記載されています。予測や将来に関する記述とは、当社(連結子会社を含む)の今後の計画、見込み、戦略、将来における当社の業績に関する現在の見通しや予想に基づいています。これらの予測や将来に関する記述は、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の仮定および判断に基づいており、将来の業績を保証するものではありません。また、当社や当社グループは、新たに入手した情報や今後起こり得る事象をもとに、これらの将来に関する記述を公的に更新したり改訂する義務を負いません。従って、これらの予測や将来に関する記述のみに全面的に依拠することは控えてくださいますようお願いいたします。また、実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、本レポートに記載している予測や将来に関する記述と大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実性には、以下のようなものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。(1)特定の販売先への依存度、(2)商品開発力、(3)知的財産権、(4)商品の欠陥、(5)価格競争、(6)原材料、部品供給元への依存、(7)環境規制、(8)他社との提携の成否、(9)為替レートの変動、(10)株価の変動、(11)災害や停電などによる影響、(12)国際的な活動に潜在するリスク、(13)退職給付債務